

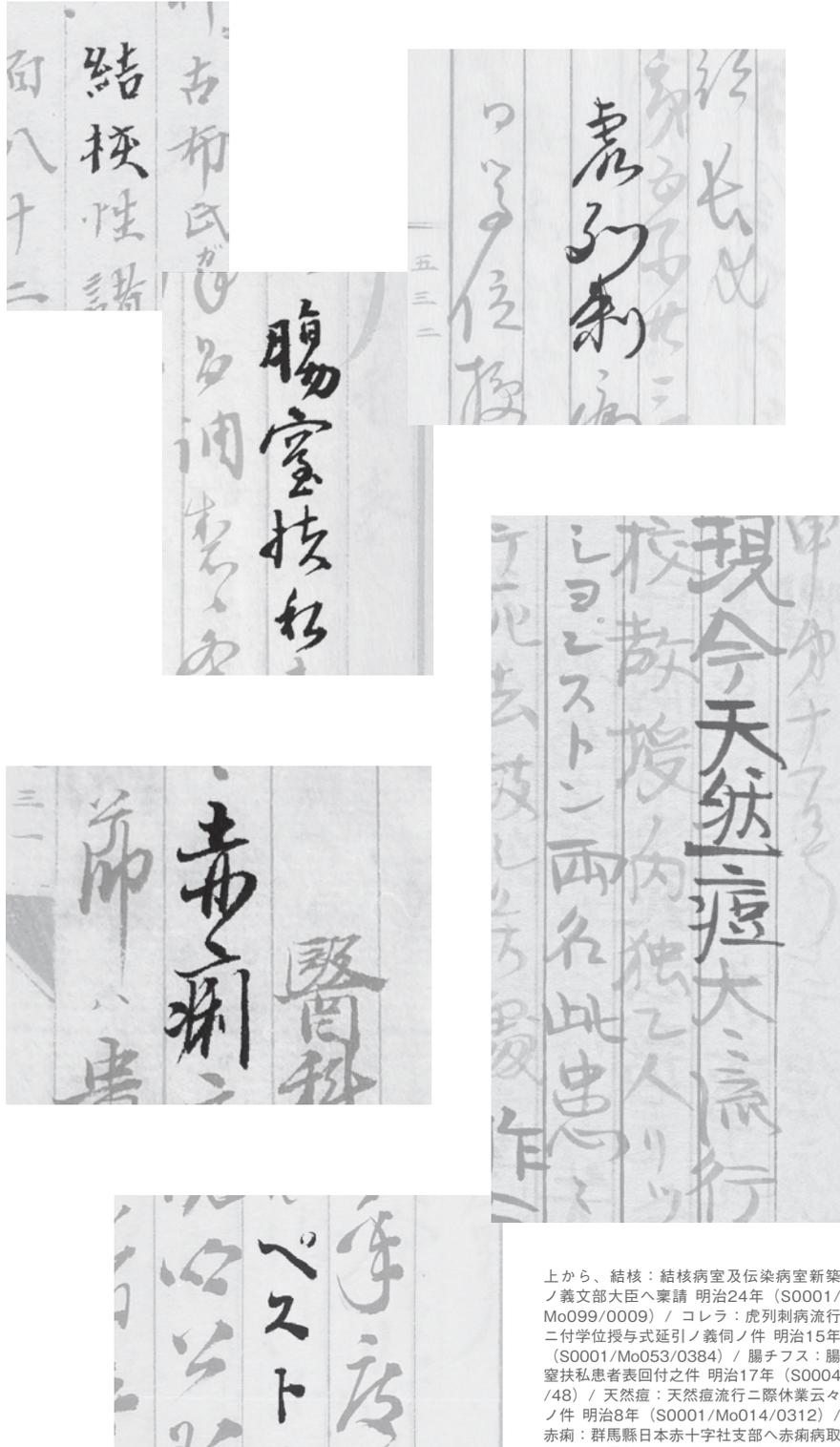
東京大学 文書館ニュース

vol. 65, Sep. 2020

The University of Tokyo Archives Newsletter

東京大学と感染症対策の記録

新型コロナウイルス感染症が世界中で猛威をふるい、各地で様々な影響をもたらしています。今回は、当館所蔵資料から我々が過去に経験、克服してきた感染症をご紹介します。



上から、結核：結核病室及伝染病室新築ノ義文部大臣へ稟請 明治24年 (S0001/Mo099/0009) / コレラ：虎列刺病流行ニ付学位授与式延引ノ義何ノ件 明治15年 (S0001/Mo053/0384) / 腸チフス：腸窒扶私患者表回付ノ件 明治17年 (S0004/48) / 天然痘：天然痘流行ニ際休業云々ノ件 明治8年 (S0001/Mo014/0312) / 赤痢：群馬縣日本赤十字社支部へ赤痢病取調ノ為メ医科大学教授緒方正規出張ノ節ニ對スル挨拶 明治29年 (S0004/53) / ペスト：会計課長ヨリ三十四年度第二予備金支出ペスト予防費ニ関スル実況詳知シ度旨照会 明治36年 (S0001/Mo120/0021)

Contents

- 2 アーカイブズ学に関する学びと学術支援職員としてのこれから
井上いぶき
- 4 新型コロナウイルス (COVID-19) 感染拡大防止への文書館としての取り組み
森本祥子
- 5 東大はコレラ流行とどのように向き合ったのか —明治15年の文書から—
千代田裕子
- 6 資料の公開について
- 7 業務日誌 (抄)
(2020年2月~2020年7月)
- 8 文書館トピックス
数字から見るコロナ禍の資料収蔵環境への影響
村上こずえ

文書館看板が設置されました



本郷キャンパス医学部一号館 (北西) の入口に看板を設置しました。お立ち寄りの際はぜひご覧ください。

 東京大学文書館
The University of Tokyo Archives

アーカイブズ学に関する学びと学術支援職員としてのこれから

東京大学文書館 学術支援職員 井上いぶき

1. はじめに

コロナという未知の脅威に晒されているイレギュラーな状況で始まった文書館での業務は、本来辿るはずだった道を遅れての出発となった。今回は、その道のスタートラインに立つまでの私自身のアーカイブズ学との関わりがどのようなものであったのか、また何を学んできたのかを、煩雑ではあるが時系列で述べていき、自己紹介としたいと思う。

2. アーカイブズ学との出会い

私がアーカイブズ学を知ったのは、親から私が好きそうな学問があるということで見せて貰った学習院大学大学院のアーカイブズ学専攻のパンフレットであった。当時私は学部生として史学科に属しており、歴史学の研究において取り扱う古文書などの様々な資料の分類や性格、歴史などに関する講義も受けていた。この講義で、資料の保存・修復における技術の奥深さや、資料を次世代へ継承していくことの難しさに関心を持っていたこともあり、資料及びその管理保存に焦点を当てた学問として紹介されていたアーカイブズ学は非常に魅力的であった。その後、大学の教養科目として史料の管理・保存を中心に学べる講義があると聞き、早速受講したことで、上述の史料学の講義で抱いた資料への関心はますます強まった。学部生としての卒論は日本中世における葬送文化をテーマとしたものの、資料への関心は残っており、大学院で専門的に興味のある分野について学べるのであればと受験を決断し、何とか学習院大学大学院のアーカイブズ学専攻でアーカイブズ学を専門的に学ばせて頂くこととなった。

以上がアーカイブズ学を知ってからその門戸を叩くまでの経緯であり、いずれも欠けてはアーカイブズ学を専門的に学ぼうとまでは思わなかったかもしれない。特に資料に焦点を当てた大学講義は、資料及びその保存・管理への強い関心を抱く大きな契機であった。

先にも述べたように、この講義では歴史学研究において使用される資料に焦点を当てたもので、その分類、性格、歴史などについて学んだ。そして歴史学及びその研究者と資料の関わりを学ぶ過程で、研究者にとって研究の必須材料となる資料もその多くが散逸の危険に晒されていることを学べたのは特に印象に残っている。例えば、各家の蔵や物置に資料が放置されたままだったり、長年放置されることで害虫獣の被害に遭ったり、その資料の価値を知らないまま手放してしまったり、そもそも自身の家に資料があるとは思っていないなど、散逸の背景は様々である。こうした散逸の危険性があるということは、現実として資料の後世への継承の難しさについても示している。一方で、このような事態は資

史料に関する知識があれば回避できる可能性もあり、資料について学ぶことは非常に重要性が高い。

この学びを通して私の中で、資料の保存・管理、及びその継承に携わることと、そうした資料に関する問題・知識を周知していくことへの想いが強まり、アーカイブズ学を学ぼうと志す背景となった。

3. アーカイブズ学専攻で学び得たこと

アーカイブズ学専攻の修士論文では日本中世における文書管理・保存の実態について迫ることとした。過去の文書保管の姿を見ていくという内容だが、アーカイブズ学だけでなく歴史学という分野に差し掛かっている内容であると言え、その区別をどうすべきかが課題でもあった。最終的に文書保管の実態に注視する内容にすることを注意したことでアーカイブズ学における成果としてまとめたつもりである。だが一方で、歴史学とアーカイブズ学が学問としては近い場所にある学問であることを痛感した。歴史学では研究に資料が必要となり、アーカイブズ学はその必要となる資料を管理・保存していくのだから、近しくて当然なのだが、この双方の関係性は今後業務に当たる上でも注意していきたい点である。

修士論文の内容に戻ると、日本古代から中世にかけての文書管理・保存については既に先行研究も多くあり、それらとどのような差別化を行うかという点も課題であった。そこで絵図資料を活用して、図面や絵として描かれた文書保管施設や文書保管に関連する道具類の持つ特性や特徴を踏まえた上で、従来日本古代・中世における文書保管の実態を示唆する史料として取り上げられている史料を読み直すことに挑戦した。加えて、上述の文書保管関係施設や道具に関する記述が書かれている史料にも注目し、その施設や道具がどのように活用されていたのか、文書保管という面を念頭に読み進めていった。

文書保管について道具に着目するだけでも、文書が収められている施設から文書をあらかじめ筒（はこ）に納めて政務を執り行う現場に持って行ったり¹、文書保管施設には厨子という文書を保管する為の道具が置かれていたり²、翌日行われる儀式に使う文書を櫃に納めて封をした上で、翌日の儀式ですぐ使えるよう文書の納められた櫃ごと文書保管施設の前に置いておく³など、当時どのように文書保管が行われていたのかその姿が豊かに思い浮かべられる。史料自体は先行研究で既に取り上げられているものだが、着目する視点を変えるだけでも新たな文書保管の姿が見えてくることが分かったのは大きな成果であった。

また修士論文の為の研究以外にも、日々のアーカイブズ学専攻での勉学も常に学ぶ所のある有意義な時間を作り出してくれた。学んだ点、感銘を受けた点は挙げれば

キリが無いが、アーカイブズ学とは紙資料・電子媒体問わずそこに記述された「情報」を適切に管理・保存し、伝えていくことであると認識を強く持てたのは、特にアーカイブズ学を学んで良かった点である。アーカイブズ学に限らず資史料についての学問と言うと、資史料そのものの管理・保存の方にまず目が行く。勿論、資史料自体の管理・保存も重要ではあるし間違いではない。では何故資史料を管理・保存していくのか、と疑問を更に掘り下げると、それは資史料にはそれが作成された当時の人々による情報が記述されているからだ、ということになるだろう。そしてこのことは、紙資料に限らず、電子媒体においても同様のことが言える。

現在、紙媒体の記録や資料だけでなく、ポーンデジタルという情報の発生時点、すなわち情報の作成時の段階でデジタル形式で作成されているような情報も数多く見られる。このことから突き詰めればアーカイブズ学とは、様々な媒体や形式で記述された「情報」を管理・保存していく為の学問であると言えるだろう。2年間の大学院生活の中を通してそのことをはっきりと自覚・認識できたのは、私自身のアーカイブズ学その姿の解像度を上げることにもなり、アーカイブズ学に関する業務に関わることになった今、自分の根本的な指標にもなっている。

4. 資史料のデジタルスキャン業務

前職では古典籍のデジタルスキャンを中心に、撮影資料のクリーニングなどを行っていた。古典籍のデジタルスキャンと言うと、一見アーカイブズ学とはあまり関係無い業務のように思うかもしれない。しかし、古典籍という過去に作成された資料を1丁ずつ撮影しデジタル画像として保存することで、その資料が仮に経年劣化で喪失してしまっても、デジタルデータとして後世に伝えることが出来る。この点で、資史料等にかかれた様々な情報を後世に残すことが出来、アーカイブズ学専攻で学んできた理論やそこで培った考えなどが活かせるのではないかと思ひ、この業務に携わろうと決めた。

デジタルスキャンとクリーニングの業務では、直接資料に触れて業務に当たるのは非常に有意義な経験となった。そのほとんどの形態が冊子状態にある古典籍においても、過去に作成されてからある程度の年月が経っており、その扱いは慎重に行なわなければならない。多くは虫損害に遭っている為、撮影の際ページをめくるだけでも困難な資料もある上、日常的に取り扱うことから、逆に古典籍などの古い資料を取り扱うことに慣れてしまい粗雑に扱ってしまうことが無いよう、自分自身の意識の変化にも注意していた。この自分自身の意識の変化に注意することは、アーカイブズ学の業務に携わりたい自分自身には必要な考えだと思ひ、意識するよう心掛けていた。

- 1 『小右記』長元2(1029)年4月1日条、『山槐記』文治1(1185)年9月11日条、『小右記』長和5(1016)年2月26日条。
- 2 『群書類従』公事部「新任弁官抄」
- 3 『本朝世紀』天慶1(938)年11月2日条

5. おわりに

最後に、東京大学文書館での現在の日々とそこでの業務を記し、結びとしたい。文書館の学術支援職員として採用され、様々な業務に当たっているが、私が主に行っているのは施設における温湿度管理と資料整理である。温湿度管理は、資料が収蔵されている書庫の温湿度とその数値の増減具合を確認し、それに応じて除湿機などの空調管理設備の管理も行う。部屋の面積や空調管理設備の能力も考えつつ温湿度を管理していく必要がある。資料が収蔵されている場における温湿度と環境管理は重要であり、いかに資料にとって最良の環境を維持するかが課題である。

そして資料整理は、原物の資料と対面しながらその物理的な整理・処置を行ったり、目録を作成したりと、原物の資料があることが前提となる業務である。一口に資料と言っても様々な特徴や来歴を持つ資料があり、それをいかに見抜き、考慮しながら保管だけでなく利用する際に最適な形で整理していく。

また在宅業務として、東京大学所蔵資料に記載の記述をデータとして入力する業務も行っている。担当は、総長の決裁文書の綴りである「検印録」と、東京大学で起こった大学紛争の日々の事件をまとめた「紛争日誌」の2つである。いずれもその記述からは、当時の書き手による事実が如実に伝わってくる。このような記述が記された資料をデジタルデータという新たな形式で残す為の業務に当たっていることはこの上なく貴重な経験であることを日々実感している。

アーカイブズ学に直接関連する業務として実際に行なうのはここでの業務が初めてであり、慣れない点もまだあるが、実践的なアーカイブズ学の業務を行う場に携われるのはまたない機会であり、これまで学んできたことを活かせるよう積極的に業務を取り組み、アーカイブズ学についての学びをより深いものとしていきたい。

(いのうえ いぶき)



『紛争日誌(その4)』自昭和43年12月17日 至昭和44年3月26日(東京大学文書館柏分館所蔵)

新型コロナウイルス（COVID-19）感染拡大防止への文書館としての取り組み

東京大学文書館 准教授 森本祥子

1. はじめに

東京大学文書館は、COVID-19の感染拡大に伴い、様々な業務の停止や変更を行ってきた。いつからどのような対応に切り換えたか、ということについては本誌の「業務日誌」の記録に任せることとして、本稿では対応にあたっての考え方や見えてきた課題についてまとめることとする。

2. 大学の文書館ならではの課題と対応

当館の運営を規定するのは、東京大学の一機関であるということと、国立公文書館等として指定を受けているということとの二つの性格である。前者だけであれば、学内サービスに徹する、あるいは学内者と学外者で受けるサービスに差が出て、問題はない。しかし後者の性格を考えると、学内者だけが資料閲覧できて学外者は来館できない、という差が生じることは許されない。そのため、所属による不利益が生じることがないように、学外者のキャンパス立ち入りが制限されている間は完全閲覧停止とするという選択をした。

このため長期に亘って資料への直接のアクセスを全面的に停止せざるを得なくなったが、その代わりにできることとして、情報発信強化と文書館スタッフによる資料利用支援強化に取り組むこととした。具体的には、デジタルアーカイブの掲載情報の充実、および、写しの交付対応時の支援強化である。

デジタルアーカイブ関係では、簿冊資料の件名目次や利用希望の多い古い写真の画像登録を進めた。年度単位でさまざまな案件の文書が綴られている往復文書については、もともと利用者から件名目次公開へのニーズは寄せられていた。そのことは十分把握していたが、これまではなかなかその整備に時間が割けずにいた。また、古い写真のオンライン公開もかねてより実施したかったが、やはり後回しになっていた。通常勤務においては、何よりも未整理資料の物理的な整理・公開を進めることが最優先であり、まずは資料出納単位での目録情報の提供に専念することとなる。「より使いやすく」という観点からの業務は優先順位を下げざるを得ない。ところが館スタッフが在宅勤務となったことで、図らずもこうしたデジタルデータ整備作業が業務としても適していることに気づき、この機会に「より使いやすく」するための業務に集中することができた。合わせて、すでに公開している画像データの悉皆確認作業にも取り組んだ。

写しの交付は、通常はトラブルを避けるため、利用者自身に資料を見て撮影箇所を特定してもらうことにしているが、閲覧停止期間にはそれができないため、文書館スタッフによる撮影箇所特定への支援を手厚くすることとした。ただし、館スタッフの出勤が引き続き制限され

るなかで撮影作業も従来どおりにできないため、受け付ける量を制限するかたちで運用を開始した（一人100画像まで/月、館としては150画像/月）。

引き続き手探りだが、この機会を活かして文書館業務の厚みを増したいと考えている。

3. 閲覧再開後の対応

本稿執筆（7月末）時点ではいまだ開館の見通しは立っていないが、閲覧再開後の運営体制については徐々に準備を進めている。2カ所ある閲覧室について、消毒やマスク着用の要請といった点は共通ながら、閲覧空間や動線の異なることを踏まえて対応をとることとした。柏分館ではカウンター上にパーティションを設けたり閲覧機の配置を変更することで複数の閲覧者どうしが向かい合わせにならないようにする一方、本郷本館は閲覧室が小さいために換気を優先してカウンター上のパーティションは設けないこととし、また閲覧機も配置換えが難しく向かい合わせ利用とならざるを得ないため、机上にパーティションを置いた。

また運用面では、閲覧を予約制にすることを予定している。公文書管理法の趣旨としては誰もが予約なく資料にアクセスできることが求められるが、小さな閲覧室しか持たない当館のような環境では、平常時の法の趣旨と特殊時のリスク管理とを比べたとき、後者を優先すべきと考えるためである。

4. 新たな気づきとこれから

今回、出勤制限や閲覧停止といった文書館としてのイレギュラーな状況や、社会全体の急激な変化に直面し、今後に向けて新たな気づきを得ることもあった。

出勤制限のため建物の無人の時間が長くなったことにより、温湿度の安定管理が難しくなり、また虫の生息状況にも変化が見られた。今後の環境管理を考えるデータとして貴重である。また、社会全体でオンラインでのコミュニケーションや情報収集が急速に当たり前になったことにより、資料利用におけるデジタルアーカイブの重要性が高まったし、大学事務のリモート処理の増加に伴い、今後の法人文書管理のかたちが変わることも想定しなければならない。

しかしながら、文書館を取り巻く状況が変わる時だからこそ、文書館としての本質を見失わないよう、しっかり地に足をつけておくことを、何よりも忘れずにいたい。

（もりもとさちこ）

東大はコレラ流行とどのように向き合ったのか —明治15年の文書から—

東京大学文書館 特任研究員 千代田裕子

新型コロナウイルスの感染拡大により4月に開始された大学の活動制限は、本稿を執筆している令和2年7月現在、まだ解除されていない。歴史を振り返れば、日本全国でたびたび疫病が流行しており、江戸期から流行を繰り返しているコレラ（虎列刺／帛列刺／虎列拉）もその一つだ。明治15年のコレラ流行時の東京大学では、罹患者と接触した者の出勤の差し控えや学位授与式の延期など、現在と類似した状況があった。当時の大学は、感染症とどのように向き合ったのだろうか。

1. 明治15年のコレラ流行概況と防疫体制

明治15（1882）年、日本におけるコレラ流行は東北部に集中し、全国で5万人余が罹患、死亡者数は3万人を超えた¹。内務省衛生局の記録²によると、同年の東京府下でのコレラ発生は5月29日で、最終的な患者数は6,525人うち死亡者数は5,077人だった。内務省衛生局がコレラ対策の指揮をとったが、患者や死者の急激な増加に衛生行政だけでは対応が困難となった。そこで患者の隔離や交通遮断に対しては警察の機動力が必要とされ、特に東京府では患者の避病院への搬送や消毒措置など警視庁が全面的に対処した³。

2. 東京府下の患者数と大学のコレラ対策

当館所蔵の「コレラ対策関連」文書は、東京府下でコレラが発生した三日後から始まっている。

下表に、主な文書を時系列で並べ、内務省衛生局発表「東京府下虎列刺患者数日表報告第一回」⁴（5月30日～7月23日分）を参考にして、当該日付の府下の累計患者数を併記した。

流行がみえ始めた6月1日には、大学庶務は幹部に向けて「本学近傍にも患者が発生したため、外出の際はなるべく飲食を控え、コレラ患者には決して近づかないように」との注意を促し、翌日には医学部庶務に対して学生へ注意喚起するよう通達している。

警察がコレラ対策の前線にいたことは前述したが、6月2日、16日、29日の「東京府下虎列刺病患者ノ件」は警視庁発信の

いわば「患者数週報」で、府下における日ごとの患者と治癒者・死亡者数が集計されている。こうした統計資料も状況判断に利用したのだろうか、府下の累計患者数が100人を超えた6月半ばになると、学生生徒の保全に関する文書がみられるようになる。6月16日には、学生生徒に患者が出た際の対応として教室の消毒方法などを記した文書が、また寄宿舎での集団感染回避のためか、寄宿生を下宿させる費用の支出に関する文書もある。そして、6月5日の時点では隅田川での水泳演習実施を例年どおり予定するも、患者が300人を超えた6月30日には中止を決定している。

さらに重大な決定は、例年7月に実施していた学位授与式の延期だ。流行の収まりが見えない7月3日、大学は学位授与式を9月或いは10月まで延期したい旨の伺いを文部省に提出している（結果的に学位授与式は10月28日に執り行われた）。

7月半ば以降、コレラ対策関連文書は、医学部医院においてコレラ患者が発生した際の対策などに限られ、大学運営に関するものはみられなくなる。

3. 文書の動きからみる学内外の情報伝達

府下の患者数が1,000人を超えた7月14日と15日には、患者に接近した者は大学への出勤を差し控えるよう求める旨の文書が続く。これは文部省からの通達を、翌日に大学庶務課から学内に通知したものである。このように、文部省との往復文書を綴った「文部省往復」や、官庁以外との機関等との往復文書綴である「諸向往復」、そして学内の連絡用文書をまとめた「校内往復」などを日付で追っていくと、学外から学内の情報伝達経路をトレースすることができる。

明治15年11月、東京府下でのコレラ流行は終息した。短期間のうちに猛威をふるった病に対して大学は、現代と同様に感染状況をみながら対応していたことがうかがえた。今回の新型コロナウイルス感染症に関する本学の記録も、後世へ確実に引き継がれるようにしていきたい。（ちよだ ゆうこ）

日付	件名	発信者／受信者	簿冊名	累計患者数 (府下)
6/1	虎列刺病豫防ノ件	大学庶務課／総理、総理心得、総理補助、幹事	校中往復 明治十五年分 全壹冊(S0005/11)	6
6/2	東京府下虎列刺病患者ノ件	警視庁／東京大学	諸向往復 明治十五年分 三冊之内丙号(S0004/36)	6
6/2	虎列刺病府下へ傳染ニ付注意方学生生徒へ達ノ件	大学庶務課／医学部庶務課	校中往復 明治十五年分 全壹冊	
6/5	學生水泳所借受ノ件	東京大学／警視庁	諸向往復 明治十五年分 三冊之内丙号	32
			6/11 府下の累計患者数100人を超える	108
6/16	學生生徒中虎列刺病患者有之節心得方ノ件	大学庶務課／総理、総理心得、総理補助、幹事、各学部長、予備門長	校中往復 明治十五年分 全壹冊	137
6/16	東京府下虎列刺病患者ノ件	警視庁／東京大学	諸向往復 明治十五年分 三冊之内丙号	
			6/23 府下の累計患者数200人を超える	206
6/26	虎列刺病流行ニ付寄宿生一同下宿ノ件	大学庶務課／総理、総理心得、総理補助、幹事	校中往復 明治十五年分 全壹冊	265
6/29	東京府下虎列刺病患者ノ件	警視庁／東京大学	諸向往復 明治十五年分 三冊之内丙号	342
6/30	虎列刺病流行ニ付水泳ヲ罷メ候件	大学庶務課／総理、総理心得、総理補助、幹事、予備門長	校中往復 明治十五年分 全壹冊	365
7/1	學生水泳演習停止ノ件	警視庁／東京大学	諸向往復 明治十五年分 三冊之内丙号	393
7/3	虎列刺病流行ニ付学位授与式延引ノ義伺ノ件	東京大学／文部省	文部省往復 明治十五年度(S0001/Mo070)	467
			7/4 府下の累計患者数500人を超える	517
			7/11 府下の累計患者数1,000人を超える	1,004
7/14	虎列刺病流行ニ付病者ニ接近セシキ出勤遠慮ノ儀内規被相定候件	文部省／東京大学、東京外国語学校、東京師範学校、東京女子師範学校長ほか5機関の長	文部省往復 明治十五年 丁(S0001/Mo052)	1,277
7/15	虎列刺病者ニ接近セシキ出勤遠慮ノ義内定ノ件	大学庶務課／総理、総理心得、総理補助、幹事	校中往復 明治十五年分 全壹冊	1,372
			7/23 時点	2,493

¹ 林志津江、「北里柴三郎「日本におけるコレラ」(1887年)」、『北里大学一般教育紀要』20：167-173

² 内務省衛生局、1885、『虎列刺病流行紀事 明治15年』、6

³ 笠原英彦、「伝染病予防法までの道のり：医療・衛生行政の変転」、『法学研究』80(12)：113-142

⁴ 読売新聞 1882年8月6日 朝刊

資料の公開について (2020年2月1日～2020年7月31日)

上記期間内に整理を終え、新たに公開した特定歴史公文書等ならびに歴史資料等は、以下のとおりです。
(新規登録資料群＝★)

※概要記述とアイテムリスト(目録)は、当館のデジタル・アーカイブからご確認いただけます(<https://uta.u-tokyo.ac.jp/uta/s/da/page/home>)。

特定歴史公文書等

事務	
S0010	開業式・行幸・各種式典
S0203	キャンパス計画室会議
S0207	★ 国際学生宿舍管理
S0208	入学科・授業料免除及び奨学金
S0215	★ 柏キャンパス・リエゾン室関係
S0216	★ 柏地区安全衛生管理
S0223	学生委員会
S0241	放射線安全委員会
S0265	本部共通施設運営委員会
S0289	外国人学生在籍状況調査
S0334	★ 国際センター柏オフィス運営
S0348	防災対策委員会
S0359	五月祭
S0360	死亡叙位・叙職申請
S0416	科学技術研究調査回答
S0420	寄付講座・寄付研究部門の設置等報告
S0450	外国人留学生支援基金運営委員会
S0519	環境安全本部年報
S0520	政府調達契約一覧
S0522	施設実態報告
S0535	★ 放射性炭素年代測定装置委員会
S0540	★ 大講堂利用計画委員会
S0541	★ 廃寮関連資料(庶務部・総務部)
S0542	★ ボランティア支援班会議 東日本大震災対応
S0544	★ 大学コンソーシアム東葛
S0546	★ 情報システム戦略会議
S0547	★ 情報システム人材育成
S0548	★ 学生委員会体育部会
S0415	総長室総括委員会
大学院・学部	
S0255	工学系研究科・工学部 安全管理
S0259	教授会・教授総会
S0267	総合文化研究科・教養学部 実験時における倫理審査
S0268	総合文化研究科教育会議
S0276	総合文化研究科・教養学部予算
S0277	駒場地区衛生委員会
S0278	総合文化研究科・教養学部 運営諮問会議
S0286	医学系研究科・医学部 外部関連団体関係
S0302	農学生命科学研究科・農学部 教授会
S0430	総合文化研究科・教養学部 東日本大震災対応
S0442	薬学系研究科・薬学部 ヒトを対象とする研究倫理審査委員会
S0445	教育学部・教育学研究科 学務委員会
S0463	工学部・情報理工学系研究科 大学院関係資料・諸調査

S0523	理学系研究科・理学部 各種委員会名簿
S0527	★ 教育学研究科・教育学部 教授会議事録
S0529	★ 教育学部・教育学研究科 図書委員会
S0530	★ バリアフリー教育開発研究センター運営委員会
S0531	★ 薬学系研究科 委員会議事録
S0532	★ 農学生命科学研究科 国際委員会
S0533	★ 牧場運営委員会
S0536	★ 理学系研究科 原子核科学研究センター(CNS)運営事務
S0543	★ 教養学部 PEAK 時間制作成

附置研究所

S0217	★ 海洋研究所教授会
S0227	先端科学技術研究センター 経営戦略会議
S0244	地震・火山科学共同利用・共同研究
S0321	地震研究所教授会
S0324	地震予知研究協議会
S0335	★ 宇宙線研究所教授会
S0336	★ 宇宙線研究所部主任会
S0378	医科学研究所倫理審査
S0391	名誉教授懇談会
S0427	社会科学研究所 所内予算
S0464	生産技術研究所 教育・学務委員会
S0465	生産技術研究所 ユーティリティ委員会
S0534	★ 生産技術研究所 総務委員会
S0537	★ 東北地方地震調査観測 運営委員会
S0545	★ 先端科学技術研究センター ボード会議

全学センター

S0260	情報メディア教育専門委員会
S0364	低温センター規程等綴
S0426	東京大学総合研究博物館将来計画委員会
S0538	★ 情報基盤センター 運営委員会
S0539	★ 情報基盤センター スタッフ会議

歴史資料等

総長資料

F0139 南原繁関係資料

教員資料

F0020 ★ 岡野行秀関係資料

学生資料

F0217 田口文太関係資料

関係団体資料

F0100 馬術部他運動会関係資料

その他

F0084 ★ 大学紛争関係資料

上記期間中も個人や団体から多数の資料を寄贈いただきました。ありがとうございます。今後も引き続き、東京大学に關係する資料・学内刊行物のご寄贈をお待ちしています。

業務日誌(抄)

(2020年2月～2020年7月)

※(本): 於本郷本館、(柏): 於柏分館

- | | | | |
|-------|---|-------|--|
| 2月3日 | 秋山、蓮實重彦元総長へインタビュー(第7回)(駒場) | 4月6日 | 東大の活動制限指針をレベル2(制限-中)に引き上げ、以後、大学の会議はすべて原則オンラインで実施 |
| 2月4日 | 明治新聞雑誌文庫よりアルバム寄贈(F0025/S01/0126)
秋山、宮本、逢坂、アジア歴史資料センターと打ち合わせ(柏) | 4月8日 | 東大の活動制限指針をレベル3(制限-大)に引き上げ、それに伴い館スタッフ全員原則在宅勤務開始 |
| 2月5日 | 森本、三重県公文書管理審査会出席
逢坂、日本写真保存センターセミナー参加 | 4月17日 | 第1回館員オンライン会議 |
| 2月12日 | 宮本、柏図書館・宇宙線研究所と展示打合せ(柏) | 4月24日 | 第2回館員オンライン会議 |
| 2月14日 | 秋山、箱田規雄電気通信大学理事インタビュー参加(本)
令和元年度第2回部局CISO連絡協議会出席(柏)
宮本、書庫見学対応(大牟田市三池カルタ・歴史資料館梶原館長)(本) | 4月30日 | 収蔵庫防虫のためエヤローチ散布(本) |
| 2月17日 | 環境整備チームによる書架清掃(～2/18)(柏) | 5月1日 | 第3回館員オンライン会議 |
| 2月18日 | 事務室の窓際配管より水漏れ(本) | 5月8日 | 第4回館員オンライン会議 |
| 2月19日 | 森本、秋山、千代田、文書管理説明会出席(本)
森本、秋山、東京大学アルバム編集会と打ち合わせ(本)
筑波大学(4名)見学来訪(本)
照度測定(設備センター)(柏)
総合研究棟建物管理専門委員会(小根山代理出席)
健康と医学の博物館展示入れ替え(第2回-5) | 5月12日 | SC105、S110、S109、SC201清掃・収蔵庫防虫のためエヤローチ散布(本) |
| 2月21日 | 森本、三菱総研ヒアリング | 5月15日 | 秋山、第1回柏一般公開担当者会議出席 |
| 2月25日 | 第64回館員打ち合わせ(本)
シリーズ・システム研究会第1回(本) | 5月22日 | 第5回館員オンライン会議 |
| 2月26日 | 秋山、国立公文書館と打ち合わせ(本) | 5月26日 | 第6回館員オンライン会議 |
| 2月27日 | NPO法人今井館教友会より資料1点寄贈(F0139/S05/0001) | 5月26日 | 柏609・620号室清掃 |
| 2月28日 | 収蔵庫防虫のためエヤローチ散布(本) | 5月29日 | 収蔵庫防虫のためエヤローチ散布(本) |
| 3月3日 | アルバム編集会資料寄贈(18箱+小箱(ネガ)2箱)
森本、秋山、健康と医学の博物館 展示撤収 | 6月5日 | 第7回館員オンライン会議 |
| 3月4日 | 609、620号室空調工事(～3/16)(柏) | 6月5日 | 第8回館員オンライン会議 |
| 3月9日 | 森本、秋山、百五十年史編纂室会議陪席(本)
秋山、赤塚義英好仁会理事長インタビュー参加(第1回) | 6月10日 | 森本、国立科学博物館プロジェクトオンライン打合せ |
| 3月12日 | 荒井紅実子氏よりアルバム1冊寄贈(F0025/S01/0148)
森本、部局CERT責任者連絡協議会(代替開催)出席(本) | 6月12日 | 森本、第3次予算配分ヒアリング出席
秋山、第2回柏一般公開担当者会議出席 |
| 3月13日 | 秋山、赤塚義英好仁会理事長インタビュー参加(第2回)(本) | 6月12日 | 第9回館員オンライン会議 |
| 3月16日 | イカリ消毒による653号室除菌・除塵作業実施(～3/18)(柏) | 6月15日 | 東京大学の活動制限指針レベル2からレベル1(制限-小)に引き下げ、以後は出勤率50%となるよう在宅勤務・出勤併用体制
マイクロフィルムリーダー撤去 |
| 3月17日 | 森本、駒場キャンパスツアー(文化資源学)参加(駒場) | 6月15日 | SC105、S110、S109、SC201清掃・収蔵庫防虫のためエヤローチ散布(本) |
| 3月18日 | 医学部1号館入口に文書館看板設置(本)
森本、秋山、アルバム編集会と打ち合わせ(本)
森本、秋山、東大闘争資料収集委員会来訪対応(本)
古書店より運営費にてアルバム購入(F0025/S01/0149) | 6月22日 | 収蔵庫除湿機稼働開始(柏) |
| 3月21日 | 事務室窓際排水管修繕工事(～3/21)(本) | 6月22日 | 第10回館員オンライン会議
柳下洋子氏より竹内松次郎関係資料(8箱)寄贈(F0264) |
| 3月23日 | 秋山、入試課と打ち合わせ(本) | 6月25日 | 全室清掃(柏) |
| 3月24日 | 第65回館員打ち合わせ(柏)
シリーズ・システム研究会第2回(柏) | 6月26日 | 森本、部局CERT責任者連絡協議会出席 |
| 3月27日 | 森本、秋山、好仁会赤塚理事長手元資料調査 | 6月26日 | 第11回館員オンライン会議 |
| 3月30日 | 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため本郷・柏閉館 | 6月26日 | 閲覧室に飛沫対策のためクリアパーティション設置(本・柏) |
| 3月31日 | 秋山淳子特任助教退職
宮本隆史特任助教退職
小根山美鈴学術支援職員退職 | 7月3日 | 第12回館員オンライン会議 |
| 4月1日 | 秋山淳子助教着任
宮本隆史助教着任
井上いぶき学術支援職員着任
規則改訂により、本部総務課事務員は本部総務課主事員となる | 7月8日 | 閉館時の特別体制による写しの交付対応開始 |
| | | 7月10日 | 第13回館員オンライン会議 |
| | | 7月13日 | 東京大学の活動制限指針レベル1からレベル0.5(一部制限)に引き下げ
SC105、S110、S109、SC201清掃・収蔵庫防虫のためエヤローチ散布(本) |
| | | 7月17日 | 森本、秋山、百五十年史編纂室会議陪席
国立公文書館による、認定アーキビスト説明会および視察(柏) |
| | | 7月20日 | 第66回館員打ち合わせ(柏)
松岡由利子氏より「帝国大学新聞」(昭和14～18年版)寄贈
SC105、S110、S109、SC201清掃(本) |
| | | 7月28日 | 森本、世田谷区公文書管理委員会出席 |
| | | 7月30日 | コンバット取替(柏) |
| | | 7月31日 | 第14回館員オンライン会議
コンバット取替(本) |

文 書 館 ト ピ ッ ク ス

数字から見るコロナ禍の資料収蔵環境への影響

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）が拡大していく中、4月6日、東京大学はキャンパスにおける活動制限の指針レベルを2に引き上げました。当館職員の出勤も大幅に制限されることとなり、収蔵庫の清掃や温湿度管理が困難な状況となりました。2014年より収蔵庫内の温湿度管理及び昆虫相調査を行ってきましたが、このような状況下での数字は何を示すのか。職員の出勤が制限されていた4月～6月までの期間について、本郷の収蔵庫2部屋と柏1部屋（7部屋あるうち資料を一番多く保管している収蔵庫）の直近3年間の数字を見てみました。

		収蔵庫	2018年			2019年			2020年		
			4月	5月	6月	4月	5月	6月	4月	5月	6月
収蔵庫 温湿度	温度 (℃)	本郷 1	17.8	20.9	23.6	18.7	21.5	21.8	17.1	20.9	21.7
		本郷 2	19.7	22.4	21.6	17.7	21.2	21.9	16.3	20.6	21.7
		柏	21	23.4	24	18.5	22.6	24.1	21.7	21.5	24.2
	湿度 (%)	本郷 1	42.4	48.1	52.1	40.6	48.1	49	43.1	52	48.7
		本郷 2	50.6	55	60.8	45.4	52.8	55.9	46	60.3	59.3
		柏	50.2	52.1	36.5	47.4	49.4	36.2	50.2	55.2	58.3
昆虫 捕獲数 (頭数)	内部 発生	本郷 1	3	3	12	3	3	6	6	9	9
		本郷 2	2	8	15	9	18	20	32	27	68
		柏	5	20	66	5	6	21	13	19	39
	外部 侵入	本郷 1	2	3	3	0	4	4	1	0	3
		本郷 2	3	1	8	2	8	10	0	2	7
		柏	244	305	7	168	342	341	86	114	80
備考	本郷	空調開始：6/5			空調開始：6/7 防虫ブラシ交換：10/2			空調開始：6/2			
	柏	空調開始：5/18 除湿機開始：6/1			空調開始：5/24 除湿機開始：6/3 防虫ブラシ設置：9/11			柏空調開始：6/1 除湿機開始：6/15（ただし、湿度の状況で稼動しない日も有）			

本郷の収蔵庫は狭く、空調のみを連続稼働することで無人でも環境を維持することが比較的容易です。一方、柏の収蔵庫は湿気がたまりやすく、空調の他に職員が手動で除湿機稼働を行なっているため、出勤が困難な状況下では除湿管理が難しくなることは予想されましたが、この期間に得られた数字により、除湿管理の改善点を知ることができ、新たな管理方法を実施する良い機会となりました。

温湿度管理と合わせて行なっている調査は収蔵庫内で捕獲される昆虫を同定することです。上表では収蔵庫内で発生する「内部発生昆虫」と収蔵庫の外から侵入する「外部侵入昆虫」の二つに分けて捕獲数を示していますが、調査ではさらにどのような特性をもった昆虫かを細かく分類することで、防虫対策を講じています。

職員の出勤が制限されていた期間は、おおよそ内部発生昆虫の捕獲数が増え、外部侵入昆虫の捕獲数が減ったことが分かります。内部発生昆虫の増加の原因は職員による清掃が行えなかったことが大きいと考えられます。外部侵入昆虫の減少については、2019年秋に昆虫の侵入を防ぐために扉のすき間にとりつけた防虫ブラシを設置・交換したことも要因の一つだと考えられますが、人の動きがなかったことで、昆虫が収蔵庫に入ってしまうことが抑えられたことも挙げられると思います。

コロナ禍の状況下で示された数字は、何もしない収蔵庫環境の状況を知ることができ、環境整備の対策を練る一助となりました。今後も最善の方法を模索しながら、大事に資料を保存していきたいと思えます。

(村上こずえ)

東京大学文書館ニュース 第65号

ISSN 0915-3284

発行日：2020年9月30日（年2回発行）

編集・発行：東京大学文書館

〒113-8654 東京都文京区本郷7-3-1

電話：03（5841）2077（直）

<https://www.u-tokyo.ac.jp/adm/history/index.html>

印刷所：松枝印刷株式会社